

重点的に取り組む課題と目標	目標を達成するための活動計画	活動の成果・振り返り
<p>① テーマ：地域の見守りネットワークの構築</p> <p>【課題・背景】                      コロナ禍の影響で日常生活が制限され外部とのつながりが少なくなっている高齢者も多く、身近な地域での見守りの重要度が増している。                      また、担当圏域の民生委員の交代や欠員も多く、高齢者見守り相談窓口も含めた更なる連携強化の必要性もあり。</p> <p>【目標】                      担当圏域の民生委員や高齢者見守り相談窓口との連携強化を図るとともに、地域のサロンの訪問や配食業者との情報交換会などにより、第2層生活支援コーディネーターとも協働しながら地域での見守りのネットワーク構築を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員との地区連絡会をエリア別に開催。地域での見守り活動をより効果的かつ効率的に行うか、民生委員が不在の地域をどのように見守るかなど検討。</li> <li>・ 見守りワークショップを第1エリア（関戸・一ノ宮）にて開催。民生委員と見守り協力員を対象として見守り相談窓口との連携強化を図る。</li> <li>・ 新規のサロンなど包括でまだ関わりのないサロンについて訪問。顔の見える関係をつくり身近な相談窓口として包括の周知を図りネットワークの構築を図る。</li> <li>・ 配食業者との情報交換会を開催。配食業者の抱える課題を共有し効果的な協力体制を検討する。日常的な安否確認機能を持っている配食業者との連携を図ることで地域の見守り体制強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員との地区連絡会を第1エリアで8月、1月に開催。「個を見守る」をテーマに連携事例紹介や各機関の機能や役割等を相互に再確認した。また、地域で活動の場として活用できそうな資源について検討した。</li> <li>第5エリアで12月に開催。民生委員の不在地区が多い中で地域の見守りにつて現状を共有、身近な地域でつながりをつくることの重要性を共有した。</li> <li>・ 見守りワークショップを8月に開催。民生委員、見守り相談窓口、見守り協力員、社協、市高齢支援課が参加。自分の役割を確認し他機関の見守り機能を知ることで、連携の必要性や難しさを共有した。</li> <li>・ 包括で関りのないサロン3か所に訪問、情報収集と包括の周知を行った。圏域内のサロンについて継続的に関わる機会を持つことが課題。</li> <li>・ 配食業者との情報交換会を7月に開催。見守り相談窓口による見守りサポーター講座を実施、活発な意見交換の場となった。また、包括支援センターや見守り相談窓口の機能を理解してもらい地域の見守り体制の強化に繋がった。</li> </ul>

	重点的に取り組む課題と目標	目標を達成するための活動計画	活動の成果・振り返り
②	<p>テーマ：地域の集う場の創出</p> <p>【課題・背景】          コロナ禍で日常生活に制限が続いてきた中で高齢者のフレイルのリスクが懸念される。身近な地域で集える場は社会資源として重要だが集える場が不足している地域もある。          また、認知機能が低下した高齢者の通いの場の創出やコロナ禍の影響で休止している認知症カフェの再開についても検討が必要である。</p> <p>【目標】          地域住民や第2層生活支援コーディネーターとの協働により地域の集う場を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域介護予防教室やサロンなど集える場の社会資源が不足している地域について、第2層生活支援コーディネーターと協働して課題を共有して具体的な取り組みについて検討の機会を持つ。</li> <li>・コミュニティセンター・つむぎ館と共同で認知症予防に向けた定例会を開催。元気チェック開催日に合わせて脳トレなど考慮したレクリエーションを行う。つむぎ館、介護予防リーダーなど地域住民と相談しながらの共同開催を行い、認知機能の低下した高齢者の通いの場を創出する。</li> <li>・コロナ禍の影響で休止している認知症カフェについて、再開に向けて場所の課題があるが、以前から支援してくれているボランティアからの再開希望の声があがっていることもあり、今年度はボランティアからの意見も聴取し再開に向けての検討をすすめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源の不足している乞田地区の近トレ立ち上げ支援を第2層生活支援コーディネーターと行ったが、メンバー間の関係やサロン運営の負担など課題あり継続ならず。愛宕地区については来年度に都営団地の移転が始まり新しいコミュニティができるタイミングで社協と協働して関わっていく。</li> <li>・つむぎ館との共同で元気チェック&amp;やさしい脳トレを4月、7月、10月、1月に実施。延べ78名参加。脳トレ運動は定着し、介護認定された方や認知症の方の参加もあり、お互いに配慮しながら運動ができている。次年度も継続していく。</li> <li>・看護小規模多機能で開催していた認知症カフェの再開を検討したが課題が多く再開には至らず。愛宕4丁目にコミュニティスペースを運営している団体と相談のうえ、1月から新規で認知症カフェを立ち上げ。出張相談も兼ねて包括も参加し、活動が継続できるように支援していく。</li> </ul>

令和5年度 北部地域包括支援センター活動計画

令和5年度地域包括支援センターの運営方針に基づき、下記のとおり計画を策定する。

総合相談支援業務

【活動方針】

民生委員との地区連絡会ではエリア別に地域での見守り活動について検討する。第1エリア(関戸・一ノ宮)にて見守りワークショップを開催し、見守りに関する地域の課題と役割を整理しながら見守りのネットワークの構築を図る。また、新規のサロンなどと顔の見える関係づくりをすすめ地域とのネットワーク構築を図る。

<必須項目>

【項目】 地域特性に応じたテーマを設定した民生委員連絡会の開催 <small>市設定目標の根拠:テーマを設定した連絡会を1回開催(地域課題会議と兼用開催可)</small>	目標値	実績
<p>【実施手段】(テーマ案: 地域での見守り活動について)</p> <p>第1エリア(関戸・一ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)のエリア別に開催。地域での見守り活動をより効果的かつ効率的に行うか、民生委員が不在の地域をどのように見守るかなど検討。</p>	<p>2回 <small>(市方針目標値 1回)</small></p>	<p>3回</p>
<p>【年間振り返り】</p> <p>第1エリア(関戸・一ノ宮)は8月・1月、第5エリア(愛宕・乞田)は12月の計3回実施。個の見守りにおける各関係機関の機能の再確認、地域で活動の場として活用できそうな資源の検討、身近な地域でつながりをつくることの重要性を共有した。</p>		

<任意項目>

【項目】見守りワークショップの開催	目標値	実績
<p>【実施手段】</p> <p>北部包括愛宕支所に併設の高齢者見守り相談窓口の開設につき、昨年の第5エリア(愛宕・乞田)でのワークショップ開催に引き続き、今年度は第1エリア(関戸・一ノ宮)にて民生委員と見守り協力員を対象として、見守り相談窓口との連携強化を図ることを目的としてワークショップを開催。</p>	<p>1回</p>	<p>1回</p>

<p><b>【年間振り返り】</b> 見守りワークショップを8月に開催。民生委員、見守り相談窓口、見守り協力員、社協、市高齢支援課が参加。自分の役割を確認し他機関の見守り機能を知ることで、連携の必要性や難しさを共有した。</p>		
<p><b>【項目】</b>地域のサロンとのネットワーク構築</p>	<p>目標値</p>	<p>実績</p>
<p><b>【実施手段】</b> 新規のサロンなど包括でまだ関わりのないサロンについて訪問。サロンの特徴などの情報収集のうえ地域の社会資源として把握するとともに、顔の見える関係をつくり身近な相談窓口として包括の周知を図りネットワークの構築を図る。</p>	<p>3か所</p>	<p>3か所</p>
<p><b>【年間振り返り】</b> 包括で関りのないサロン3か所に訪問、情報収集と包括の周知を行った。圏域内のサロンについて継続的に関わる機会を持つことが今後の課題。</p>		

**権利擁護業務・虐待防止・消費者被害**

**【活動方針】**

身寄りのない高齢者への終活支援について介護支援専門員への勉強会や、頼れる親族がなく不安を抱える高齢者への権利擁護に関して活用できる社会資源のチラシの配布など行い権利擁護の普及啓発を図る。また、消費者被害について地域住民への講座など行い、被害防止の普及啓発にも取り組む。

<必須項目>

【項目】 権利擁護業務・虐待防止・消費者被害に関する勉強会開催数 <small>市設定目安の根拠: 上下半期に1回</small>	目標値	実績
<p><b>【実施手段】</b> 身寄りのない高齢者への終活支援について介護支援専門員を対象とした勉強会を権利擁護センターに講師依頼し開催。実際の事例を通じて支援方法を取得することを目的とする。また、消費者被害防止について地域住民に向けた出前講座を消費生活総合センターへ依頼し開催。最近の被害の特徴と対処方法、見守りのポイント、発見時の対処方法などを理解することを目的とする。</p>	<p>2件 <small>(市方針目安 2件)</small></p>	<p>2件</p>
<p><b>【年間振り返り】</b> 6月に権利擁護センターに講師依頼し、高齢者あんしんサポート事業、あんしんサポートたま等について介護支援専門員を対象に勉強会を実施。11月に消費生活センターに講師依頼し、地域住民に向けた出前講座を実施、実際の具体的な相談事例を共有し消費者被害防止の注意喚起ができた。</p>		

<任意項目>

【項目】 コミュニティセンターと共同で地域の防犯力を高めるための講座開催	目標値	実績
<p><b>【実施手段】</b> 多摩中央警察署へ講師依頼し開催。多摩市で起きている被害状況など警察から直接話を聞くことでより具体化され、コミュニティセンターと共同開催することで地域での防犯力を高める。</p>	<p>1回</p>	<p>2回</p>
<p><b>【年間振り返り】</b> 11月にふれあい館、1月につむぎ館にて多摩中央警察署と連携して地域住民へ向けた講座を開催。消費者被害、特殊詐欺など具体的な被害状況など共有し注意喚起ができた。</p>		

【項目】 地域住民へ向けた権利擁護の普及啓発	目標値	実績
<p data-bbox="94 156 241 188">【実施手段】</p> <p data-bbox="94 188 1868 284">頼れる親族がない高齢者が抱える今後の不安が解消できるように、権利擁護の視点から相談先や制度など利用できる社会資源についてチラシを作成し、高齢者見守り相談窓口とも協力して戸別訪問などで配布を行い権利擁護の普及啓発を図る。</p>	200 件	200 件
<p data-bbox="94 347 277 379">【年間振り返り】</p> <p data-bbox="94 379 2105 475">頼れる親族がない高齢者の権利擁護や経済面・住まいの不安が解消できるように、権利擁護センター、しごと・くらしサポートステーションの相談先をわかりやすくしたチラシを作成。個別訪問の際や地域介護予防教室・サロンなどへ訪問した際に配布し普及啓発を行った。</p>		

**介護予防ケアマネジメント業務(第1号介護予防支援事業)**

**【活動方針】**

コロナ禍で日常生活に制限が続いてきた中で高齢者のフレイルのリスクが懸念される。危険な老化のサインに早期に気づきフレイル予防に取り組むことが重要と思われる。フレイルのリスクが高い高齢者を地域の社会資源や総合事業につなぎ、地域住民・第2層生活支援コーディネーター・見守り相談窓口との協働により地域の介護予防を推進する。

<必須項目>

【項目】 通所型短期集中予防サービス(元気塾)利用人数 <small>市設定目標の根拠:実績と高齢者人口を基に算出</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 短期集中で専門的なりハビリが必要な対象者を元気塾へつなく。包括で実施する元気チェックから介護予防が必要と思われる対象者をつなぎ、予防プランを委託している介護支援専門員にも元気塾の周知をして活用を促す。	29人 <small>(市方針目標値 29人)</small>	21人
<b>【年間振り返り】</b> 事業対象者や要支援の認定を受けた方の中で、自己通所できる強みがある高齢者にはその強みを活かし元気塾の利用につなげた。		

【項目】 通所型短期集中予防サービス(元気塾)から地域介護予防教室等の地域活動につなぐ人数 <small>市設定目標の根拠:利用者の7割を想定</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 介護予防リーダーの地域介護予防教室のほか、サロンや老人クラブなど地域の社会資源へつなぎ、モニタリングも行う。	20人 <small>(市方針目標値 20人)</small>	12人
<b>【年間振り返り】</b> 元気塾から地域介護予防教室へつないだケースは8人、近所 de 元気アップトレーニングなどの地域活動につないだケースは4人。卒業後に地域活動につないだ方で介護予防リーダー養成講座を受講し、介護予防リーダーとして地域の担い手となった卒業生もあり。		

【項目】 住民主体による訪問型サービス利用人数 市設定目標の根拠:実績と高齢者人口を基に算出	目標値	実績
<b>【実施手】</b> 住民主体による訪問型以外のサービス(たすけあい活動、自費ヘルパー、配達サービスなど)も活用していく。また、本人の状況に応じて自立支援の視点から訪問型サービスからの移行も検討する。予防プランを委託している介護支援専門員にも住民主体による訪問型サービスを周知して活用を促す。	19人 <small>(市方針目標値 19人)</small>	24人
<b>【年間振り返り】</b> 生活支援が必要な新規利用者から適切なアセスメントのもと順次つなぐことができた。委託プランでも2件の利用あり。利用者の身体状況低下により利用回数不足や要介護となりヘルパー事業所へ移行したケースや、サポーターの調整がつかずヘルパー事業所へ移行せざるを得ないケースもあり。		

【項目】 地域包括支援センター主催による介護予防講座等の開催 市設定目標の根拠:実績から算出	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 定期的な元気チェックを実施。コミュニティセンターや介護予防リーダーなどの地域住民や、見守り相談窓口と連携しながら、介護予防の普及啓発を推進していく。第1エリア(関戸・ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)で各々4回ずつの開催を予定。	8回 <small>(市方針目標値 2回)</small>	8回
<b>【年間振り返り】</b> 第1エリアで4回(つむぎ館)、第5エリアで4回(かえで館、愛宕支所)実施。延べ201人が参加。1回開催の平均参加人数が昨年度と比較して23.9人/回から25.1人/回と増えており定着。リピーターも多く元気チェックの測定結果(筋肉量、握力など)が蓄積され、自身の状態を知り介護予防のモチベーション維持に役立っていると思われる。		

【項目】 元気塾リハビリテーション専門職訪問同行支援の利用 市設定目標の根拠:実績と高齢者人口を基に算出	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> リハビリテーションに関して身体的な評価や助言が必要なケース、市の一般福祉サービスの住宅改修や日常生活用具給付を申請するケースなどについて、リハビリテーション専門職の訪問同行支援を活用する。	10回 <small>(市方針目標値 10回)</small>	12回
<b>【年間振り返り】</b> 元気塾のリハビリテーション専門職と同行し、身体状況の評価、自主トレーニングの助言、サービス選択(元気塾、通所、訪問など)の助言、住宅改修・用具選定など環境整備の助言など、利用者・家族と共有しQOL向上やケアマネジメントに役立てることができた。		



【項目】 介護予防給付において特定のサービス事業所に偏らない 市設定目標の根拠: 他市参考値	目標値	実績
【実施手段】 適切なアセスメントのもと、利用者の目標が達成できるように利用者と相談しながらサービス事業所を選定していく。	占有率 50%未満	%
【年間振り返り】 適切なアセスメントのもと、利用者の目標が達成できるように利用者と相談しながら、特定の事業所に偏りなくサービス事業所を選定できている。訪問型サービス、通所型サービスでの入浴介助など要支援の対応枠がなく調整が難航するケースが目立つ。		

【項目】 居宅支援事業所に委託する際は特定の事業所に偏らない 市設定目標の根拠: 他市参考値	目標値	実績
【実施手段】 個々のケースにより適切な委託先を選定し、利用者へ情報提供を実施。	占有率 40%未満	%
【年間振り返り】 特定の事業所に偏りなく委託しているが、委託が可能な事業所が確実に少なくなっている状況あり。新規の予防プランほぼ委託ができない状況が続いている。		

<任意項目>

【項目】 自立支援に向けた地域資源の活用についての勉強会	目標値	実績
【実施手段】 生活困窮者への支援について介護支援専門員を対象として、しごと・くらしサポートステーションに講師依頼し開催。しごと・くらしサポートステーションの機能を理解することで困難ケースの対応力の向上を図る。 予防プランの委託先の介護支援専門員を対象として、自立支援に向けた地域資源の活用についての勉強会を社会福祉協議会と協働にて開催。総合事業（住民主体による訪問型サービス、元気塾など）、地域介護予防教室、近所de元気アップトレーニング、サロン、たすけあい活動などの地域の社会資源を理解し自立支援に向けた介護予防マネジメントのスキルアップを図る。	2回	回
【年間振り返り】 10月に社協と協働にて総合事業やサロンなど地域の互助の社会資源について、11月に行政書士に講師依頼しエンディングノートについての勉強会を実施。		

**包括的・継続的ケアマネジメント業務・地域包括ケアシステムの構築**

**【活動方針】**

地域ケア会議(個別ケース会議、地域課題会議、自立支援マネジメント会議)を活用しながら、地域包括ケアを推進していく。困難ケースなどの課題解決に向け、居宅介護支援事業所と連携して介護支援専門員の支援を行う。

<必須項目>

【項目】 支援困難事例等に対する居宅介護支援事業所支援ケース数 <small>市設定目標の根拠:実績から算出</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 多問題世帯、認知症、権利擁護などの問題を抱えた困難ケースについて、居宅介護支援事業所と連携して介護支援専門員の支援をしながら課題解決していく。ケース管理表を活用して件数など把握する。	5件 <small>(市方針目標値 5件)</small>	6件
<b>【年間振り返り】</b> 市基幹型包括とのケース確認会にて進捗状況を確認しながら支援を実施。支援困難ケースについて、地域ケア会議の活用や医療や権利擁護の専門機関などへの調整を行い、居宅介護支援事業所と連携して介護支援専門員の支援を図ることができた。		

【項目】地域課題会議(わがまちミーティング)の実施 <small>市設定目標の根拠:実績から算出</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 地域での見守り活動をより効果的かつ効率的に行うか、民生委員が不在の地域をどのように見守るかなど民生委員との地区連絡会を兼ねて各エリア別に検討。	2件 <small>(市方針目標値 1件)</small>	2件
<b>【年間振り返り】</b> 第1エリアでは1月に地域で活動の場として活用できそうな資源について検討。第5エリアでは12月に民生委員の不在地区が多い中で地域の見守りについて現状を共有し対応を検討。地域での見守りにおいて、高齢者自身が個々に身近な地域でつながりをつくることの重要性を共有した。		

<b>【項目】個別地域ケア会議(にこにこ・らくらくミーティング)の実施</b> <p style="text-align: right;">市設定目標の根拠:実績から算出</p>	<b>目標値</b>	<b>実績</b>
<b>【実施手段】</b> 日常業務の中から、介護支援専門員の対応困難な事例や地域や関係機関と連携しながら地域包括ケアが推進できるような事例を選定し地域ケア会議を開催。	5 件 <small>(市方針目標値 5 件)</small>	5 件
<b>【年間振り返り】</b> 債務整理が必要な独居高齢者の支援、自宅のごみが片付けられない独居高齢者の支援、認知機能が低下した高齢者の相続手続と今後の生活、認知症高齢者の施設入所に向けての意思決定支援、部屋が片付かず支援の受け入れが困難な独居高齢者の支援について、地域ケア会議を活用しながら関係機関と解決策や役割分担を検討した。		

<b>【項目】自立支援ケアマネジメント会議(ぐっどらいふミーティング)の実施</b> <p style="text-align: right;">市設定目標の根拠:実績から算出</p>	<b>目標値</b>	<b>実績</b>
<b>【実施手段】</b> 新規の介護予防プランなどの自立支援に向けた個別課題の検討や自立支援を阻害している地域課題の抽出を包括内で共有しながら選定会議を毎月実施。選定会議の蓄積からケースを選定し、第 2 層生活支援コーディネーターと包括でぐっどらいふミーティングを開催。	3 件 <small>(市方針目標値 3 件)</small>	3 件
<b>【年間振り返り】</b> ぐっどらいふミーティングを 3 件実施。いずれのケースも通いの場がない地域課題があることを第 2 層生活支援コーディネーターと共有。担い手の人材発掘など次年度で取組む。		

<任意項目>

<b>【項目】見守り機能のある配食業者向けの情報交換会</b>	<b>目標値</b>	<b>実績</b>
<b>【実施手段】</b> 配食業者の抱える課題を共有し効果的な協力体制を検討する。日常的な安否確認機能を持っている配食業者との連携を図ることで地域の見守り体制強化を図る。	1 回	1 回
<b>【年間振り返り】</b> 配食業者との情報交換会を 7 月に開催。見守り相談窓口による見守りサポーター講座を実施、活発な意見交換の場となった。また、包括支援センターや見守り相談窓口の機能を理解してもらい地域の見守り体制の強化に繋がった。		

【項目】 社会資源の創出の検討	目標値	実績
<p data-bbox="98 156 241 188">【実施手段】</p> <p data-bbox="98 194 1809 284">地域介護予防教室やサロンなど集える場の社会資源が不足している地域について、第 2 層生活支援コーディネーターと協働して課題を共有して具体的な取り組みについて検討の機会を持つ。</p>	2 回	2 回
<p data-bbox="98 347 277 379">【年間振り返り】</p> <p data-bbox="98 386 2132 481">社会資源の不足している乞田地区の近所 de 元気アップトレーニングの立ち上げ支援を第 2 層生活支援コーディネーターと行ったが、メンバー間の関係やサロン運営の負担など課題あり継続ならず。愛宕地区については来年度に都営団地の移転が始まり新しいコミュニティができるタイミングで社協と協働して関わっていく。</p>		

## 認知症高齢者への支援

### 【活動方針】

認知症を知る月間のイベントとして認知症に関する講座を第1エリア(関戸・一ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)にて企画実施。また、コミュニティセンターなど地域住民と共同で認知症予防に向けた定例会として認知機能が低下した高齢者の通いの場の創出や、認知症カフェの再開について地域のボランティアの意見を聴取しながら検討をすすめていく。

### <必須項目>

【項目】徘徊高齢者等認知症支援に関する個別地域ケア会議の開催件数 <small>市設定目標の根拠:実績から算出</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 介護支援専門員からの相談や認知症の見守りソールの相談があったケースなど認知症高齢者の事例から選定のうえ、個別地域ケア会議を実施。	1件 <small>(市方針目標値 1件)</small>	件
<b>【年間振り返り】</b> 徘徊高齢者のケースはなかったが、認知機能が低下した高齢者の相続の手続きと今後の生活について、認知症高齢者の施設入所に向けての意思決定支援について、個別地域ケア会議を開催して認知症支援について検討した。		

【項目】認知症講座(認知症サポーター養成講座、その他認知症講座)の実施件数 <small>※カウント対象 ・前年度に実施していない団体への講座(認知症サポーター養成講座、その他認知症講座) ・対象ごとに適切なテーマを設定して実施した講座(その他認知症講座) 市設定目標の根拠:令和4年度多摩市認知症施策に準ずる</small>	目標値	実績
<b>【実施手段】</b> 認知症を知る月間のイベントとして認知症に関する講座を第1エリア(関戸・一ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)にて企画実施。	2回 <small>(市方針目標値 2回)</small>	6回
<b>【年間振り返り】</b> 認知症を知る月間のイベントとして第1エリアではつむぎ館にて若年性認知症の講座、第5エリアではアーケードカフェにて認知症と口腔ケアの講座を開催。その他、認知症サポーター養成講座をKDDI、社協たすけあい協力員に実施。その他、サロンや配食業者に向けて講座を実施。		

<任意項目>

【項目】つむぎ館と共同で認知症予防に向けた定例会を開催	目標値	実績
【実施手段】 元気チェック開催日に合わせて脳トレなど考慮したレクリエーションを行う。つむぎ館、介護予防リーダーなど地域住民と相談しながらの共同開催を行い、認知機能の低下した高齢者の通いの場を創出する。	2回	4回
【年間振り返り】 つむぎ館との共同で元気チェック&やさしい脳トレを4月、7月、10月、1月に実施。延べ78名参加。脳トレ運動は定着し、介護認定された方や認知症の方の参加もあり、お互いに配慮しながら運動ができている。次年度も継続。		

【項目】認知症カフェの再開に向けての検討	目標値	実績
【実施手段】 コロナ禍の影響で休止している認知症カフェについて、再開に向けて場所の課題があるが、以前から支援してくれているボランティアからの再開希望の声があがっていることもあり、今年度はボランティアからの意見も聴取し再開に向けての検討をすすめていく。	2回	2回
【年間振り返り】 看護小規模多機能で開催していた認知症カフェの再開を検討したが課題が多く再開には至らず。愛宕4丁目にコミュニティスペースを運営している団体と相談のうえ、1月から新規で認知症カフェを立ち上げ。出張相談も兼ねて包括も参加し、活動が継続できるように支援していく。		